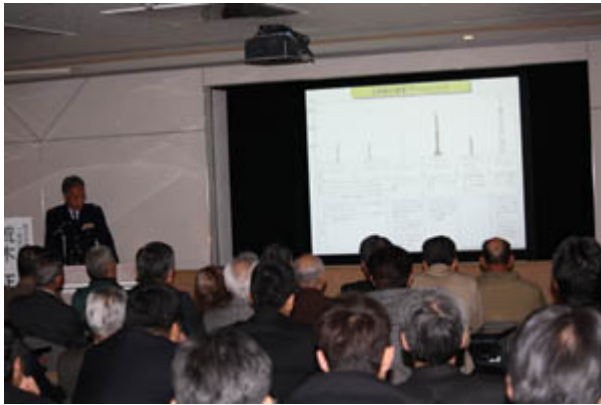


第12回防衛問題セミナー開催概要

開催日時：平成22年4月15日（木）

開催場所：福岡県春日市（クローバープラザ）



会場全景（クローバープラザ/春日市）

テーマ

弾道ミサイル防衛とペトリオットPAC-3
について

講師

航空自衛隊第2高射群司令

荒木正嗣 1等空佐

「セミナー概要」

4月15日、福岡県春日市原町のクローバープラザにおいて、第12回防衛問題セミナーを開催しました。

今回は、航空自衛隊春日基地に司令部を置く第2高射群司令荒木正嗣1等空佐を講師に迎え、「弾道ミサイル防衛とペトリオットPAC-3について」と題しセミナーを実施しました。また、初めての手話付きのセミナーでした。

当日は、100名を超える聴衆で開場が埋まる中、最初に当局の木坂局長がセミナー主催者として挨拶し、九州防衛局の役割や本日のテーマ等について述べた後、講師を紹介しました。

講演において、荒木1等空佐は、周辺国情勢として北朝鮮の弾道ミサイルの状況、弾道ミサイル防衛システムの概要とペトリオットPAC-3の役割、整備状況、弾道ミサイル防衛に係る法的枠組み等についてスライドを使用しながら分かりやすく説明しました。

来場された方々は、スライドを使った丁寧な説明や、昨年4月に北朝鮮が打上実験をした時の自衛隊の対応などに熱心に耳を傾けておりました。講演終了後、講師との間で活発な質疑応答が行われました。

九州防衛局では、防衛省の諸施策についてより多くの方が理解と協力を得られるよう、今後も各地でセミナー等を開催する予定です。

「セミナー風景」



講演前に挨拶する木坂慎一九州防衛局長



講演する航空自衛隊第2高射群司令 荒木正嗣1等空佐



きゅうしゅう

No.9

編集・発行
九州防衛局 総務部

福岡市博多区博多駅東
2丁目10-7
福岡第2合同庁舎内
092-483-8811



在沖縄米海兵隊による実弾射撃訓練（日出生台演習場）

九州防衛局現地対策本部総括班広報担当撮影

主な内容

日出生台演習場における米海兵隊実弾射撃訓練	2
築城基地における米軍再編に係る訓練移転	4
ペトリオットPAC-3の配備について	4
次期回転翼練習機TH-135の鹿屋航空基地配備等	5
第11回防衛問題セミナー開催のご案内	5
コンプライアンス研修を実施	6
平成22年度防衛省職員採用試験のご案内	6

九州防衛局 Kyushu Defense Bureau 

<http://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/>



日出生台演習場において

日出生台演習場（大分県）において、平成17年度以来4年ぶり7回目となる沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施に伴う訓練が実施されました。

訓練部隊は1個砲兵中隊、人員約220名、車両約50両、砲数6門で、1月22日、沖縄駐留の第12海兵連隊第3大隊の先発隊約20名が、24日に本隊約200名が到着し訓練の準備が始まりました。

到着後の1月26日には第12海兵連隊長ジェントリー大佐が由布市長、九重町長、玖珠副町長を表敬訪問し、翌27日には、ジェントリー大佐と松本現地対策本部長が出席し、地元自治体関係者及び報道関係者約40名に対してブリーフィングが行われました。

また、実弾射撃訓練期間中の2月3日には、地元自治体関係者約70名及び報道関係者約30名に訓練の様子が公開され、砲陣地近くで第3大隊長ウェスター中佐による訓練内容及び装備品などの説明の後、参加者は鉄帽、防弾チョッキを着用のうえ各砲陣地において155ミリ榴弾砲の射撃を間近に見学しました。

訓練終了後の2月15日と16日には、福岡市内への自由外出や日本文化に対する理解を深めるため別府、宇佐、大分市内を巡る文化ツアーが行われました。



米海兵隊実弾射撃訓練を実施



今回の訓練は、実弾射撃開始予定であった2月1日は天候不良により訓練を中止したものの翌2日から11日までの10日間、氷点下の厳しい寒さが続く中、実弾射撃訓練が実施され、2月20日に訓練部隊が沖縄に向け出発し全ての日程を終了しました。

九州防衛局では、訓練の円滑な実施を図るため、局内に木坂局長を本部長とする九州防衛局米海兵隊実弾射撃訓練実施対策本部を設置しており、また現地には本隊到着前の1月20日、演習場内しょう舎地区に米海兵隊実弾射撃訓練現地対策本部を置き、地元自治体等との連絡調整や、演習場周辺の巡回などを行い、地元住民の不安解消と訓練が安全かつ円滑に実施できるよう対応しました。

【日出生台演習場における米海兵隊実弾射撃訓練の概要】

1月20日 九州防衛局現地対策本部を開設
 1月22日 訓練部隊の先発隊（約20名）が日出生台演習場に到着
 1月24日 訓練部隊の本隊（約200名）が日出生台演習場に到着
 1月26日 第12海兵連隊長が関係自治体を表敬訪問
 1月27日 関係自治体、報道関係者を対象にブリーフィングを実施
 2月 2日 射撃訓練開始
 2月 3日 訓練公開
 2月11日 射撃訓練終了（射撃日数10日間）
 2月18日 訓練部隊（本隊第1陣）が日出生台演習場を出発
 2月19日 訓練部隊（本隊第2陣）が日出生台演習場を出発
 2月20日 訓練部隊（後発隊）が日出生台演習場を出発、九州防衛局現地対策本部を閉所

【訓練実施部隊の概要】

参加部隊：第12海兵連隊第3大隊（1個砲兵中隊）
 人員：約220名
 車両：約50両
 砲数：6門

航空自衛隊築城基地における米軍再編に係る訓練移転



3月5日から12日までの間、航空自衛隊築城基地において、米空軍三沢基地に所属する第35戦闘航空団による米軍再編に係る訓練移転が実施され、航空自衛隊からも第8航空団及び西部航空警戒管制団も参加しました。

訓練期間中の3月9日には、地元自治体関係者等を対象にF16戦闘機などが公開されました。

また、米側からの申し入れにより基地西側にある行橋市仲津校区多目的広場（通称：松原展望台広場）において、訓練に参加した米軍によるボランティア清掃活動が実施されました。

九州防衛局では、訓練期間中における周辺住民の安心、安全対策の一環として訓練情報の提供及び各種問い合わせへの対応や地元自治体、関係機関等との連絡窓口として築城基地内に現地対策本部を設置し対応しました。

ペトリオットPAC-3の配備について



2月24日、第2高射群第8高射隊（高良台）に対し、ペトリオットPAC-3を配備しました。

今回、搬入された器材は、ペトリオットPAC-3を構成する器材である、迎撃ミサイル発射装置（発射機）、レーダー装置、射撃管制装置です。

今回のペトリオットPAC-3の配備は、首都圏所在の第1高射群、浜松所在の高射教導隊及び第2術科学校、京阪神・中京地区所在の第4高射群、北九州地区所在の第2高射群指揮所運用隊（春日）及び第

5高射隊（芦屋）並びに第7高射群（築城）の配備に続いて実施するものです。

これに加え、本年春頃までには、第2高射群第6高射隊（芦屋）に対してペトリオットPAC-3を配備する予定です。

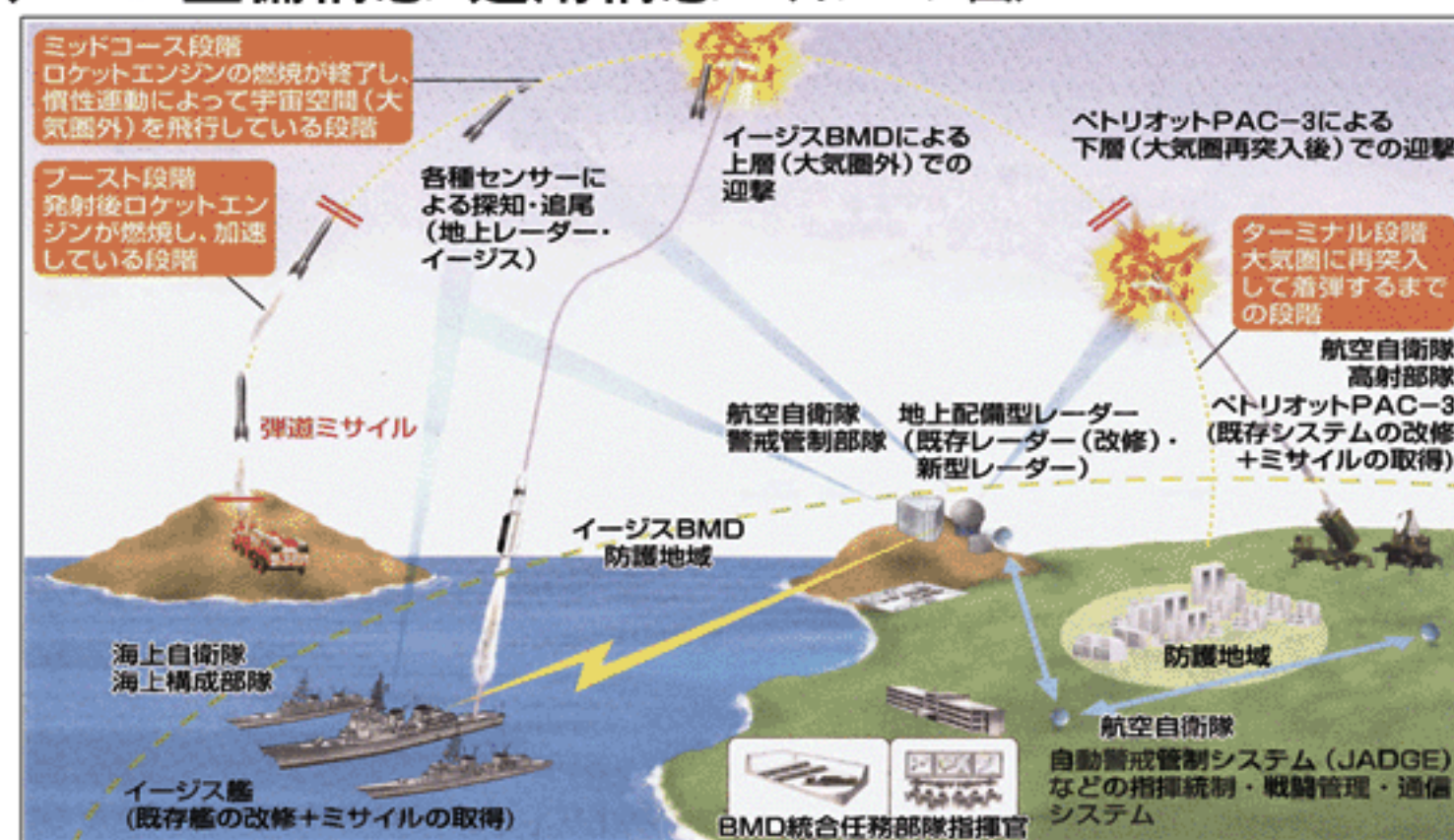
わが国の弾道ミサイル防衛について

◆BMDシステムの整備の概要（基本的考え方：平成21年度防衛白書より）

わが国が整備を進めているBMDシステムは、現在自衛隊が保有しているイージス艦とペトリオット・システムの能力を向上させるとともに、自動警戒管制システム（JADGE）により、イージス艦による上層での迎撃とペトリオットPAC3による下層での迎撃を連携して効果的に行う多層防衛を基本としています。

平成23年度をもって、イージス艦（BMD機能付加）：4隻、ペトリオットPAC3：16個FU（高射隊及び教育所用分）、FPS5：4機、FPS3改（能力向上型）：7機をJADGEなどの各種式統制・戦闘管理・通信システムで接続したシステムを構築することを当面の目標としています。

◆BMD整備構想・運用構想（イメージ図）



海上自衛隊次期回転翼練習機TH-135の鹿屋航空基地配備等について



海上自衛隊では、現在、鹿屋航空基地で使用している回転翼練習機OH-6D/DAが老朽化に伴い除籍が始まっているため、順次後継機であるTH-135に更新していくこととしていますが、3月上旬に、教育練習機としての計装作業を終えたばかりのTH-135の1号機と2号機が相次いで配備先となる鹿屋航空基地に搬入しました。

TH-135は、ユーロコプター社製の双発機で、原型となったEC135シリーズは、世界中で数多く運用されており、国内においても

ドクターヘリや報道ヘリ等として豊富な使用実績のある高性能かつ安全性に優れた機体です。

今後は鹿屋航空基地において、機体の性能評価と教官養成を行う予定であり、平成23年8月頃からTH-135を使用した学生教育を開始する計画で、また、海上自衛隊では、回転翼練習機がTH-135に変更されることに伴い、従来は他基地において固定翼機を使用して行っていた計器飛行課程を、今後は鹿屋航空基地においてTH-135を使用して実施することにより、回転翼操縦士の教育を鹿屋で一貫して実施し、教育の合理化と効率化を図ることとしています。

なお、TH-135の導入に当たっては、当局から地元自治体（鹿屋市及び鹿児島県）に対して、配備計画の概要等について説明を行ってきたところであり、地元自治体からは、安全確保の徹底と騒音対策への配慮について要望があったところです。

当局としては、これら地元要望を踏まえ、海上自衛隊とも協力しながら適切に対応していくこととしています。

第11回防衛問題セミナー開催のご案内

第11回 防衛問題セミナー
ソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動について

開催日
 平成22年3月19日(金) 18:00開場 18:30開会
 20:00頃終了予定

場所
 アルカスSASEBO 佐世保市三浦町2-3
 (3階 大会議室) 電話 0956-42-1111

講師
 ありはら まさお
 海上自衛隊第2護衛隊司令 1等海佐 在原 政夫
 (第2次派遣海賊対処水上部隊指揮官)

アクセス
 ■JR・MR佐世保駅から徒歩5分
 ■西九州自動車道佐世保みなとインターから車で約5分
 ※駐車場は有料となります。

参加方法
 ■参加無料/事前の申し込みは必要ありません。
 ■定員になり次第締め切りとさせていただきますので、ご了承ください。

お問い合わせ先: 防衛省九州防衛局 企画部 地方調整課 092-483-8816
 福岡県福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号 福岡第2合同庁舎
<http://www.mod.go.jp/rab/kyushu/>

九州防衛局では、防衛省の政策や自衛隊の活動の現状などについて、広く国民の皆様にご理解をいただくため、防衛問題セミナーを開催します。

多数のご参加をお待ちしております。

テーマ：ソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動について

講師：海上自衛隊 第二護衛隊司令 在原 政夫 一等海佐

日時：平成22年3月19日(金) 18:00開場、18:30開会

場所：アルカスSASEBO 3F大会議室 (長崎県佐世保市三浦町2-3)

お問い合わせ先：九州防衛局 企画部 地方調整課 092-483-8816

コンプライアンス研修を実施



九州防衛局では、1月19日及び3月1日の2日間、全職員を対象にコンプライアンス研修を行いました。この研修は、業務の公正性・透明性の確保のため、局職員に対して一層の法令等遵守意識の向上及び倫理観の育成を図ることを目的に実施したもので、外部から講師を招き、コンプライアンスを正しく理解すること、コンプライアンスの実践、トラブルに対する対応など具体的な例をあげ分かりやすく行われました。

平成22年度防衛省職員採用試験のご案内

	試験の程度	試験区分	受験資格	申込用紙等 配布開始日	受付 期間	第1次 試験日	第1次 合格者 発表日	第2次 試験日	最終 合格者 発表日
I 種 試 験	大学卒業程度 研究職俸給表2級の 係員を採用するた めの試験	数 化 電 機 造 航 学 子 械 船 空	1 昭和52年4月2日～平成元年4月1日生まれの者 2 平成元年4月2日以降生まれの者で次に掲げるもの (1) 大学を卒業した者及び平成23年3月までに大学を卒業する見込みの者 (2) 防衛省が(1)に掲げる者と同等の資格があると認める者	2 ・ 19 (金)	4 ・ 1 (木)	5	6	6 月 中 旬	7 ・ 2 (金)
						9 (日)	4 (金)		
II 種 試 験	大学卒業程度 行政職俸給表(一)1級の 係員等を採用する ための試験	行 語 学 (英 語) 政 語 学 (英 語) 国 際 関 係 (英 語) 国 際 関 係 (中 国 語) 国 際 関 係 (朝 鮮 語) 数 電 機 土 建 学 子 械 木 築	1 昭和56年4月2日～平成元年4月1日生まれの者 2 平成元年4月2日以降生まれの者で次に掲げるもの (1) 大学、短期大学又は高等専門学校を卒業した者及び平成23年3月までに大学、短期大学又は高等専門学校を卒業する見込みの者 (2) 防衛省が(1)に掲げる者と同等の資格があると認める者	4 ・ 12 (月)	4 ・ 13 (日)	6	7	7 月 下 旬	8 ・ 20 (金)
						13 (日)	9 (金)		
III 種 試 験	高校卒業程度 行政職俸給表(一)1級の 係員を採用するた めの試験	一 電 機 土 建 般 事 務 気 械 木 築	平成元年4月2日～平成5年4月1日生まれの者	5 ・ 17 (月)	7 ・ 1 (木) ・ 7 ・ 20 (火)	9 ・ 26 (日)	10 ・ 18 (月)	10 月 下 旬	11 ・ 19 (金)

注: 1 採用時の給与は、人事院が行う国家公務員採用I種・II種・III種試験合格者と同じです。

2 事務系及び研究職以外の技術系のI種職員の採用は、人事院が行う国家公務員採用I種試験合格者の中から行いますので、細部は防衛省ホームページ(<http://www.mod.go.jp/>)などで確認してください。

3 I種及びII種試験の受付期間が短いので、ご注意ください。

九州防衛局では不測の事態に対応するため、夜間・休日を問わず連絡体制を確保しております。

(平日は17時15分から翌朝8時30分まで、休日は終日)
(上記以外の時間帯は各課室直通電話へご連絡下さい)

夜間及び休日の連絡先

電話:(092) 483-8832
FAX:(092) 472-1959

編集後記

現委員での編集は、今号をもって最後となりました。本誌を通して、九州防衛局を少しでも身近に感じて頂けたとすれば、編集委員にとってこれ以上ない幸せです。次号から新メンバーによる編集となりますが、これまで以上に分かりやすく読みやすい誌面を目指して参りますので、今後とも広報「きゅうしゅう」をよろしくお願ひします。

国連ハイチ安定化ミッション(MINUSTAH)への参加

MINUSTAH

United Nations Stabilization Mission in Haiti
国連ハイチ安定化ミッション



平成 22 年 1 月 12 日(日本時間 13 日)に、ハイチ共和国の首都ポルトープランス付近を震源とする大地震が発生しました。これを受けて、1 月 19 日、国連安保理は国連ハイチ安定化ミッション(MINUSTAH)の要員の増員に関する決議を、我が国を含む全会一致で採択しました。

我が国としては、さらなる人的貢献を行うため、国連による MINUSTAH への要員派遣の要請を受けて自衛隊の部隊派遣を決定し、2 月 6 日以降、国際平和協力法に基づきハイチ派遣国際救援隊約 350 名の隊員を現地に派遣しています。自衛隊の部隊は国連の統括の下、周辺地域の瓦礫の除去、道路補修、既存施設の耐震診断、軽易な施設建設など、ハイチの当面の復旧に貢献しています。

また、MINUSTAH に対し、司令部要員として自衛官 2 名を派遣しており、MINUSTAH の活動に係る企画及び調整を行っています。

なお、我が国は、国連 PKO への派遣に先立ち、ハイチ共和国政府からの要請を受けて、国際緊急援助隊の派遣に関する法律に基づき、C-130H 輸送機による JICA 医療チームのハイチへの輸送や被災民の米国への輸送を実施したほか、自衛隊の医療援助隊約 100 名により、首都ポルトープランス近郊のレオガン市において地震による被災民の治療などの医療活動を行いました。

①②③ 地震後の様子



国際緊急援助隊の活動
④⑤ ハイチ国際緊急医療援助隊による診察 ⑥ 国際緊急援助隊医療チームを輸送した C-130H 輸送機。帰路において被災民を米国へ輸送した。 ⑦ テレビ電話による現地援助隊との会談

MINUSTAH の活動
⑧ 鳩山内閣総理大臣および北澤防衛大臣らによる見送り ⑨ 先遣隊から説明を受ける隊長 ⑩⑪⑫ 現地作業の様子

私たち防衛省・自衛隊は、国際社会の一員として、ソマリア沖・アデン湾での海賊対処や国連ハイチ安定化ミッションなど、海外でのさまざまな活動に今日も取り組んでいます。

発行：防衛省大臣官房広報課 (2010.3)
〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町 5 番 1 電話：03-3268-3111(代)
<http://www.mod.go.jp/>



ケータイサイトは
こちらの QR コードから

ANTI-PIRACY MEASURES

ソマリア沖・アデン湾における海賊対処



海賊対処に取り組む護衛艦(手前)

今、日本にできること。



PKO
国際連合平和維持活動

ハイチ派遣国際救援隊の様子

日本を取り巻く世界情勢

近年、世界各地で発生している地域紛争の性格は必ずしも一様ではなく、民族、宗教、領土、資源などのさまざまな問題に起因し、その態様も、武力紛争から軍事的緊張の継続までさまざまなものとなっています。

国際社会にとっては、複雑で多様な紛争の性格を見極め、それぞれの性格に応じた国際的枠組や関与のあり方を検討し、適切な対処を模索することがより重要となっています。

UNDOF



UNMIN



UNMIS



ソマリア沖・アデン湾の海賊対処



MINUSTAH



私たち自衛隊は、海外でのさまざまな活動に今日も取り組んでいます。

ANTI-PIRACY MEASURES

The anti-piracy measures in the waters off the coast of Somalia and in the Gulf of Aden

ソマリア沖・アデン湾における海賊対処

21世紀の今日もなお、世界各地で後を絶たない海賊被害。

なかでも、近年、大きな問題となっているソマリア沖・アデン湾の海賊。

日本から遠く離れたこの海域で、過酷な環境のもと、私たち自衛隊は、国際社会の一員として、

様々な国々と力を合わせて海賊対処に取り組んでいます。

PKO

United Nations Peacekeeping Operations

国際連合平和維持活動

私たち自衛隊は、これまで中東をはじめアジア、アフリカの6か所で国際連合平和維持活動を実施してきました。国際社会の平和と安定のため、現在、国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律(国際平和協力法)に基づき、ゴラン高原、ネパール及びスーダンに要員を派遣し、活動しています。また、平成22年2月、新たに、国連ハイチ安定化ミッション(MINUSTAH)への参加を決定し、現地に隊員を派遣しています。

ソマリア沖・アデン湾における海賊対処



これまでの実績

水上部隊

派遣海賊対処水上部隊(1次隊)および
派遣海賊対処行動水上部隊(2~4次隊)
護衛実施時期 平成21年3月30日~実施中
護衛回数および隻数 113回 687隻
(平成22年3月7日現在)

航空隊

派遣海賊対処航空隊(1次要員)および
派遣海賊対処行動航空隊(2~3次要員)
任務実施時期 平成21年6月11日~実施中
飛行回数および時間 164回 約1280時間
確認した商船数 約11200隻 情報提供※ 約1210回
(平成22年3月7日現在)
※護衛艦、諸外国の艦艇及び民間商船等への情報提供

平成22年1月24日に護衛活動100回を達成し、同月26日、北澤俊美防衛大臣、樺葉賀津也防衛副大臣、楠田大蔵防衛大臣政務官が、テレビ電話を通じて、現地にいる水上部隊司令中畑1佐と会談、激励しました。



航空隊は、平成21年11月22日の任務飛行をもって、100回の任務飛行を達成した。

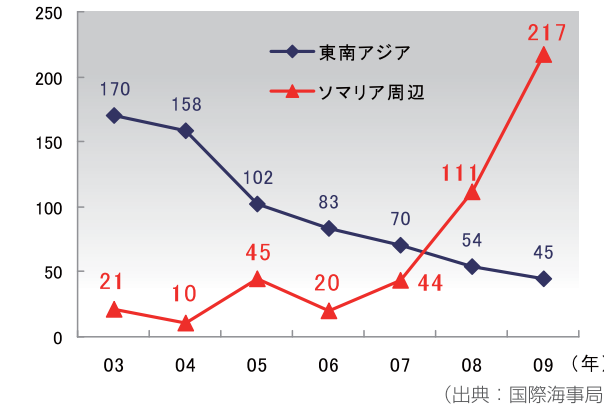
海賊事案が多発するソマリア沖・アデン湾

ソマリア沖・アデン湾は、アジアとヨーロッパを結ぶ海上輸送の大動脈。毎年、我が国に關係のある約2000隻を含む、およそ2万隻の船舶が通過します。

そんな重要な海域であるアデン湾で、近年海賊による事件が急増しています。平成21年には、実に217件に上り、世界全体の海賊事案の半数以上を占めました。

ソマリアでは、政治的な混乱と絶望的な貧困が蔓延し、地元の漁民などが生計を立てるために、人質の身代金を目当てとした海賊行為に手を染めているのです。

「ソマリア周辺海域における海賊事案」



我が国の取り組み

我が国はこうした状況に対して、海上警備行動*に基づく護衛艦による民間船舶の護衛と海賊対処法**の整備という対応策を講じました。アデン湾では、2隻の護衛艦が護衛対象の船舶を前と後ろからガードし、900kmほどの航路を一日半ほどかけて進んでいきます。

P-3C哨戒機はアデン湾上空をパトロールし、不審な船舶を発見した場合などに、護衛艦や他国の艦艇、周囲を航行する民間商船等に随時情報を提供します。

平成21年7月に海賊対処法による護衛活動が開始されてからは、我が国に關係する船舶だけではなく、あらゆる船舶を護衛することができるようになりました。

※海賊対処法が成立するまでのあいだ、危険にさらされている日本人の生命・財産を今すぐを守るため、平成21年3月13日に自衛隊法第82条による海上警備行動を発令し、3月30日から我が国関係船舶の護衛を開始。6月にはP-3C哨戒機による警戒監視活動も加わりました。

※※海賊対処法…正式には「海賊行為の処罰及び海賊行為への対処に関する法律」といい、平成21年6月24日に成立しました。この新しい法律により、我が国が海賊行為を処罰できるようになり、海賊船が民間船舶に近づこうとしている場合などに、それを食い止めるために自衛隊が武器を使用することも認められました。



海賊対処に取り組む水上部隊指揮官(手前)

派遣部隊の編成

護衛艦 2隻
合計 約400名
海上保安官8名同乗

P-3C哨戒機 2機
合計約150名
海自隊員約100名
陸自隊員約 50名

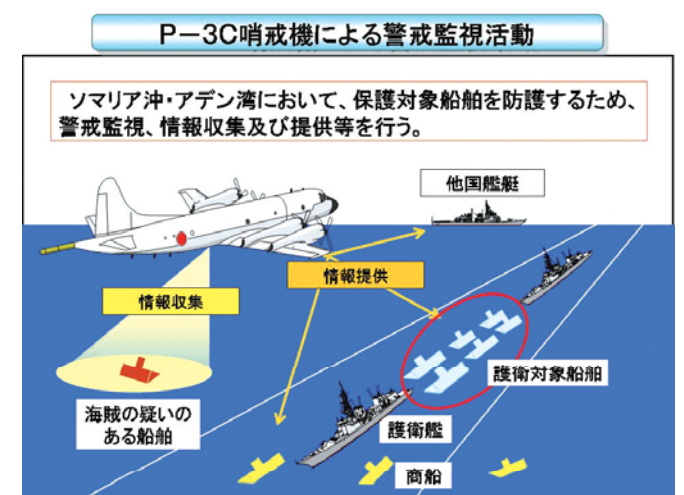
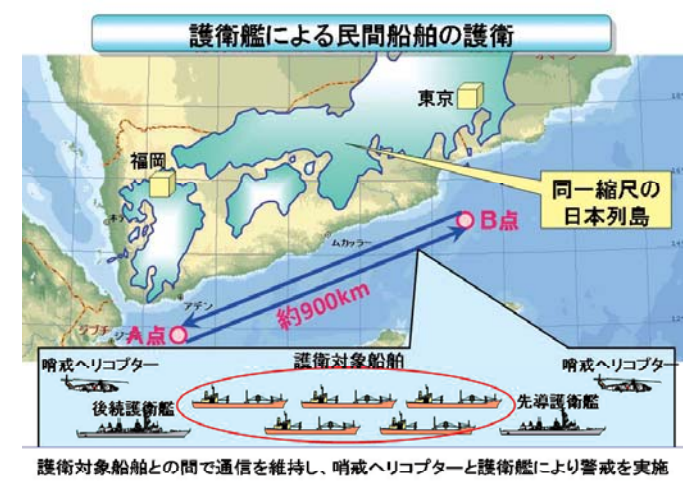
① アデン湾では、船団を組んで航行する ② ジブチ空港で警備をおこなう陸上自衛官 ③ 海賊対処は、陸上(左)、海上(中央)、航空(右)の3自衛隊が一体となって取り組んでいる ④ 物資輸送のため、ジブチ空港に着陸したC-130H輸送機 ⑤ 警戒監視中のP-3C哨戒機が確認した不審な小型船舶 ⑥ 現地では指向性大音響発生装置LRAD(左下)なども用いて任務にあたる ⑦ 海賊対処に取り組む護衛艦(手前)と護衛を受ける客船

自衛隊が守ってきたもの

平成21年3月30日の護衛開始以来、一年間で護衛した船舶は700隻近くに上り、そのすべてが安全にアデン湾を通過しました。

また、P-3C哨戒機が発見した不審船舶を他国艦艇が武装解除した事例も多く、海賊の抑止に大いに寄与しています。

日本のみならず世界のために苛酷な環境で汗を流す隊員たちの姿は、国内外から高い評価を集めています。



日本人船長からのメッセージ



中村大輔氏 (大型客船「飛鳥II」船長)
「湾岸戦争時、米軍に護衛されながら、タンカーでペルシャ湾を航行したのですが、その時は日本の船がいなくて心細い思いもしました。しかし、今回のアデン湾では、日本の護衛艦に守られ、本当に心強く感じました。現地での海賊対処は過酷な任務と聞いておりますが、日本の船員たちはみな日本の自衛隊に感謝しています。」



喜多祐次郎氏 (自動車貨物船「LyraLeader」船長)
「海賊行為が多発する海域を航行する際の恐怖・不安は相当なもの。また、航行中でも不眠不休で船橋で指揮を執らざるを得ません。自衛隊による海賊対処が始まり、日の丸をつけたヘリが頭上近くを旋回、お互いが手を振り合って意志疎通が図れた時は、涙が出そうなほど有難く、非常に心強く感じました。護衛していただいた自衛隊の方々ならびに日本政府に対する感謝の気持ちでいっぱいです。」

